

令和6年度支援計画 振り返り 空

令和 7 年 4 月 1 日

創作的活動や日常生活訓練を通じて日常生活や余暇を充実する。

- 活動目標
- 散歩や軽スポーツなどで運動能力・体力を維持する。
 - 季節を感じながら散歩や制作に取り組む。

受け入れ施設の都合や感染症の流行等により、支援内容をやむを得ず変更する場合があります。

5領域	ねらい	支援内容	まとめ
健康・生活	健康状態の維持・改善	健康状態の把握	来所時に手洗い、うがい、検温を繰り返し行うことで風邪予防の習慣が定着してきた。体調不良などで欠席する利用者も少なかった。感染症流行時や咳症状が見られた時はマスク着用を徹底し、感染予防に努めたため感染拡大を防ぐことができた。今年度から進学し制服が変わった利用者が多くいたので制服の着方やたたみ方なども習得できるように支援した。気温に応じてタオルや帽子、着替えなどを自宅から持ってくるように保護者にもご協力をいただいた。
		健康の増進	
	生活リズムや生活習慣の形成	リハビリテーションの実施	
		基本的生活スキルの獲得	
運動・感覚	基本的生活スキルの獲得	構造化等により生活環境を整える	年間を通して事業所の近隣や地区の避難場所及び公園や屋内外のスポーツ施設へ出向き、歩く機会を設けた。夏の暑い時期や冬の寒い時期のイベントでも活発に参加できる体力の向上につながった。様々な場所に出向き、季節によって情景が変わることを体感した。姿勢保持にも気を配りストレッチなどで運動を心がけた。タオルやロープなどを使った活動を取り入れていきたい。
		姿勢と運動・動作の向上	
	姿勢と運動・動作の補助的手段の活用	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	
		身体の移動能力の向上	
		保有する感覚の活用	
認知・行動	保有する感覚の総合的な活用	感覚の補助および代行手段の活用	メニューの中から昼食を選んだり、おやつの購入をしたりすることで「選ぶ」「支払う」経験を重ねることができた。活動の中で時間を気にかけられるよう、事前に内容を伝え、時計を見て行動することを伝えた。自分でお金を出す経験をし簡単な計算にも取り組んだ。時間やお金などの概念の習得については来年度も引き続き行っていきたい。
		感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)への対応	
	認知の発達と行動の習得	感覚や認知の活用	
		知覚から行動への認知過程の発達	
	空間・時間、数等の概念形成の習得	認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	
		数量、大小、色等の習得	
		認知の偏りへの対応	
言語・コミュニケーション	対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	行動障害への予防及び対応	来所や帰宅の際や来客があった場合に職員から積極的にあいさつをすることで利用者からもあいさつできるようになってきた。月初めに予定を話し合う場を設け、人の話を聞いたり、自分の思いを伝え、他者の前で発表したり話し合ったりする経験を積むことができた。発表会などを通し、言葉や身振り手振りで伝えることで他者とコミュニケーションをとる機会が増えた。
		言語の形成と活用	
	言語の受容及び表出	受容言語と表出言語の支援	
		人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得	
	コミュニケーションの基礎的能力の向上	指差し、身振り、サイン等の活用	
		読み書き能力の向上のための支援	
人間関係・社会性	コミュニケーション手段の選択と活用	コミュニケーション機器の活用	余暇時間に個々の遊びから集団への遊びへの発展が難しく個々で過ごす時間が多かった。カードやゲームを通してグループでできる活動を増やし、他者と関わる機会を設け支援した。講師を招いたダンス教室では普段運動に参加しなかった利用者も活動に参加し、講師を見ながら体を動かしていた。長期休暇中には図書館などの公共施設を利用し、マナーを守って行動できるよう支援した。
		アタッチメント(愛着行動)の形成	
	自己理解と行動の調整	模倣行動の支援	
		感覚・運動遊びから象徴遊びへの支援	
		一人遊びから協同遊びへの支援	
仲間づくりと集団への参加	自己の理解とコントロールのための支援	自己の理解とコントロールのための支援	長期休暇中には図書館などの公共施設を利用し、マナーを守って行動できるよう支援した。
		集団への参加への支援	

1 上記以外にも個別支援計画に沿った支援を適宜行っております。

2 印はイベントを想定した支援内容になります。